



福島原子力事故関連情報アーカイブ

Fukushima Nuclear Accident Archive

Title	福島県市町村除染技術支援事業における仮置場の不陸対策実証試験
Alternative_Title	Demonstration test on the temporary storage place for the decontamination technology support project of municipalities in Fukushima Prefecture
Author(s)	小磯 将広(福島県環境創造センター), 高橋 勇介(福島県環境創造センター), 澤井 光(福島県環境創造センター) Koiso, Masahiro(Fukushima Prefecture Centre for Environmental Creation); Takahashi, Yusuke(Fukushima Prefecture Centre for Environmental Creation); Sawai, Hikaru(Fukushima Prefecture Centre for Environmental Creation)
Citation	第6回環境放射能除染研究発表会要旨集, p.32 6th Workshop of Remediation of Radioactive Contamination in Environment
Subject	セッション：保管貯蔵
Text Version	Publisher
URL	http://f-archive.jaea.go.jp/dspace/handle/faa/135361
Right	© 2017 Author
Notes	禁無断転載 All rights reserved. 「第6回環境放射能除染研究発表会要旨集」のデータであり、発表内容に変更がある場合があります。 学会は発表の機会を提供しているもので、内容に含まれる技術や研究の成果について保証しているものではないことをお断りいたします。



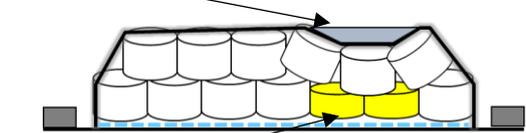
福島県市町村除染技術支援事業における仮置場の不陸対策実証試験

○小磯将広、高橋勇介、澤井光（福島県環境創造センター）

1 はじめに

福島県では、市町村等からの課題・要望を踏まえたテーマについて、現地における実証試験等の実施・評価を行い、その結果得られた技術・知見を市町村が活用することを目的に、市町村除染技術支援事業を行っている。今回、市町村の課題である、仮置場の頂部不陸（図1）を起因とした、上部シートの破れ等の状況への対処方法を検討するため、現地における実証試験を実施した。本発表では、当該事業で実施した、不陸対策実証試験の実施結果を報告する。

上部シートの凹み・滞水が発生



有機物の腐敗等による減容

図1 仮置場の頂部不陸のイメージ



図2 敷設されたジオグリッド

ジオグリッド

通気性防水シート等

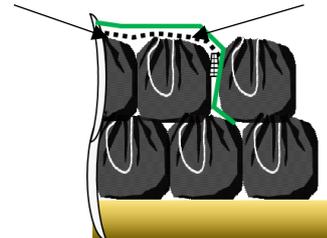


図3 通気性防水シート等敷設のイメージ

3 実施結果

経過観察の結果、滞水の完全な解消には至らなかったが、滞水した不陸の深さは、施工前に比べて減少しているのが確認できた。また、測定した深さは、ほぼ全ての不陸において、許容沈下深さの範囲内を維持していることが確認できた。なお、実際に測定した深さと許容沈下深さの結果の一例を表1に示す。

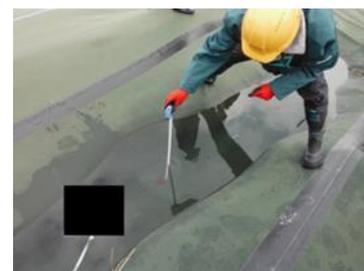


図4 経過観察時測定状況

4 まとめ

実施した経過観察の範囲では、敷設したジオグリッドの機能による不陸発生の軽減が確認でき、その結果から、上部シートの損傷防止に一定の効果があると考えられた。なお、長期的な施工効果については、引き続き、経過観察を実施することが必要と考えられる。

表1 不陸測定結果の一例

実測深さ [cm]	許容沈下深さ [cm]	施工後日数
34	—	施工前
8.5	35.8	施工1日後
23	60.5	施工3週後
23	58.1	施工6週後

参考文献

福島県環境創造センター 平成29年4月 「平成28年度市町村除染技術支援事業実証試験実施結果報告書」
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/298/28sityousonjosen.html>